

名古屋港の港湾機能の強化に関する要請書



平成22年7月

名古屋商工会議所
名古屋港振興協会
名古屋港利用促進協議会
名古屋海運協会
名古屋港運協会
東海倉庫協会

名古屋港の港湾機能の強化に関する要請

日頃は、名古屋港の発展のために、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、我が国港湾は、世界経済のグローバル化、アジアの主要港における国を挙げての施設整備やサービス水準の向上により、相対的に地位が低下しております。

こうした中、我が国においては選択と集中により国際競争力を確保するため、国際コンテナ戦略港湾として整備することが示され、名古屋港も四日市港とともに伊勢湾としてその選定に名乗りを上げ、官民一体となって取り組んでいるところでございます。

名古屋港の背後圏には、自動車や航空機などの世界的なものづくり産業が集積し、従来より我が国経済を牽引する地域として国際的な産業競争力を有しており、名古屋港はこれを物流面で強力に支えております。

仮に、基幹航路を始めとするコンテナ航路が全て他港に集約された場合には、年間約50億円の横持ち費用を必要とする企業が発生するなど中部地域の産業全体で膨大な費用負担が強いられることとなり、産業の国際競争力の低下は大変深刻なものとなります。

産業分野別にはインドやブラジルなどの新興国市場への展開を進める自動車産業では、伊勢湾の重要性が益々高まる中、名古屋港の港湾整備の遅れや横持ちによる物流面でのコスト負担増は、大きなマイナスとなります。

また、一昨年まで27年連続世界一を記録した工作機械産業では、精密機械への影響を考慮し直近の港湾からの輸出が必要であるとともに、再び世界一を目指す上で横持ち費用の負担増は製品の国際競争力に大きく影響することとなります。

さらに、航空機産業では、海外から材料を輸入し加工組立した後、海外航空機メーカーに製品を輸出する中、横持ち費用の負担は国際競争力の低下につながり、事業自体の見直しにもつながりかねないとしており、また、海外航空機メーカーからも名古屋港の重点整備が求められております。

今後、我が国がアジアを中心とした世界の成長を取り込んでいくためには、名古屋港をさらに国際競争力を備えた利用しやすい港として整備していくことが大変重要であり、港湾機能の強化・拡充することが必要不可欠であります。

つきましては、平成23年度の予算編成に当たりまして、下記事項につき、特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 伊勢湾（名古屋港及び四日市港）を国際コンテナ戦略港湾に選定すること
2. 国際競争力の強化に向け、コンテナターミナルの整備を推進すること

○飛島ふ頭南側コンテナターミナル

スーパー中枢港湾のモデルバースであり、我が国唯一の最新鋭IT自動化ターミナルでもある、飛島ふ頭南側コンテナターミナルについて機能拡充を図ること。

また、コンテナ船等の大型化に対応した航路の整備を推進すること。

○鍋田ふ頭コンテナターミナル

増大する中国・アジア物流に対応するとともに、大規模地震時に物流機能を確保するため、耐震強化機能を有する鍋田ふ頭コンテナターミナル第3バースの整備を推進すること。

3. 鍋田ふ頭進入道路の整備並びに弥富ふ頭道路改良を図ること
4. 堀川口水門・排水機場の改修を図ること
5. 高潮防波堤について適切な防災対策を図ること
6. 中川運河緑地・金城ふ頭緑地の整備を図ること
7. 廃棄物埋立護岸の整備を図ること
8. 福利厚生施設整備への補助制度を創設すること

平成22年7月

名古屋商工会議所
会頭 岡田邦彦

名古屋港振興協会
会長 高橋治朗

名古屋港利用促進協議会
会長 高橋治朗

名古屋海運協会
会長 小澤敏也

名古屋港運協会
会長 伊藤正

東海倉庫協会
会長 木全英一

名古屋港要請箇所図

